令和８年度第２回ひと咲きまち咲きあまがさき推進会議　議事録

日時：令和８年７月17日（金）　9：55～10：25
開催手法：対面形式

１．開会

（副座長）
　令和８年度第２回ひと咲きまち咲きあまがさき推進会議を開催いたします。本日の協議事項は、「後期計画策定に向けた検討状況」、および「各論ページの検討状況と今後の進め方について」の２件です。
　それでは事務局から説明をお願いします。

＜事務局より資料に基づいて説明＞

＜質疑・意見交換等＞
（委員）
　市民参画指数は、シティプロモーションの成果を測るため私が担当時に導入し、市の計画指標となったものです。人口増だけでなく、まちへの関心や担い手を増やす目的で市民の意欲を測っており、重視する「地域推奨意欲」が着実に向上している点は評価できるのではないかと考えます。
　忙しい働き世代を考慮し、「地域活動感謝意欲」なども組み込んでいますが、地域協働局ができることも踏まえ、担い手をさらに増やすためにも、街への愛着や誇りを測る尼崎ならではの指標は引き続き必要だと考えています。

（副座長）
　人口は単に数字として多ければよいのではないと思います。まちづくりの方向性とも関連しますが、尼崎の魅力である「人情の厚さ」や「おせっかい」な特徴に着目し、尼崎に住んでよかった、これからも住み続けたいという部分をうまく数値化できるとよいと考えます。

（委員）
ファミリー世帯の転出超過数については、単なる数ではなく、転入者の定着や転出、どこで生まれた世帯かといった動向まで追跡していただきたいです。現状、市への転入はできているため、今後は定着に向けた政策を考えはどうかと思います。より効果的な政策を打つためにも、どのような層が定着・転出しているのかを「世帯単位」で把握できるとよいと考えます。

（事務局）
　昨年度から協議しておりますが、住民基本台帳の構造上、転入してきた方がどれくらいの期間で転出していくかは追跡できるため、可能な範囲で分析を進めていきたいと考えています。

（副座長）
　ファミリー世帯アンケートにおいて、市外へ転出されたファミリー世帯への個別アンケートを活用すれば、転入者だったか、もともと尼崎に住んでいたかという転出前の状況を把握することは可能ですか。

（事務局）
　アンケートで改めて質問することは可能ですが、匿名回答となるため個人が紐付かず、詳細な追跡は困難です。現状で可能な範囲でのデータ分析を継続していきたいと考えています。

（委員）
　今後の指標の一つであるウェルビーイング指標は、すでに先行する自治体も多く、扱いの難しさを含めて研究されています。今回のテーマである「豊かさを実感できているか」については、客観的な事実と市民の実感との差を明確にできる点が良いと思います。
　ただ一方で、今まで高かった数字が下がったり、強みだと思っている部分が実感面では低く出たりと、我々にとって厳しい結果が出る可能性もあります。そのため、十分に検討された上で設定するのが良いかと思います。

（座長）
　物価高に伴う金利上昇は、市民の住宅ローンや市の市債管理に大きな影響を与えており、ここ数年の顕著な変化だと捉えています。また、労働力不足も、働き方や生活スタイルの変化に直結しています。
　市内の状況としては、外国籍住民の増加に加え、土地利用の変化等に伴う局地的な人口の増減に問題意識を持っています。例えば東塚口・南塚口周辺での保育園不足のように、かつての工場地帯を想定した公共施設の配置からズレが生じているため、こうした変化を注視する必要があります。
　経済面では、国際情勢による経済・技術安全保障の観点から製造業への向き合い方が変化しており、これから尼崎の強みが発揮されると感じています。
　また、駅前の整備などでまちのイメージが大きく向上しており、今はイメージを変える最後のチャンスだと思っています。工業地域でありながら人が集まりやすい環境は尼崎の大きな特徴であり、「住むまち」と「働くまち」の魅力向上が連動しています。今後は労働力が集まる街にとどまらず、本社機能やオフィス需要の獲得まで視野に入れた発展を目指すのか、今後引き続き議論していきたいと考えています。

（副座長）
　本日の会議は以上とさせていただきます。それでは、第２回ひと咲きまち咲きあまがさき推進会議を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

以　上